

(1 頁からの続き)

次に、三浦芳隆会長から基調報告がありました。

■基調報告

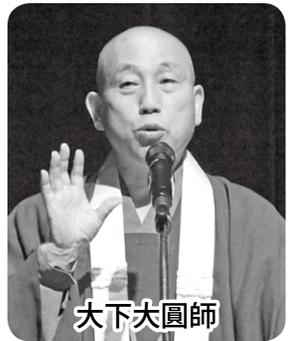
全国的に会員数が減少している昨今、平成 29 年度は市老連では 4・5% と減少幅が大きく厳しい現状です。そこで老人クラブがな

関係者の協力もあって、昨年度は昭和区、熱田区、名古屋区でクラブ・会員数が増加しました。皆さまにも 3 区の成功に続いていただきたいと思います。

引き続き、飛騨千光寺住職の天下大圓師による講演「大業に生きるワザ〜自利・利他の生き方〜」が行われました。

■講演要旨

現代の日本社会では、多くの人が「怒り」をコントロールできず、ともすれば殺伐とした空気が蔓延し



天下大圓師

ています。「怒り」は仏教において煩惱の一つであり、今日まで人々の苦しみの源泉であります。

煩惱を克服することは人間の本質上難しく、それならば逆に煩惱を抱えながらも大らかに生きていこうという考え方が生まれま

とを認め、より大きく物事を捉えていく。それは自分

本位の思いを抱くのではなく、周囲の人々や家族、社会を思いやる気持ちを抱く。そして、自分の人生を大切にし、他者のために生きる

こと。これが「自利・利他に生きること」です。

他者とのふれあいを通して咲いた笑顔や瞑想、祈りには心身のバランスを整える効果があり、生きる活力になります。自利・利他に生きることで日々の活動を豊かにしていきましょう。

休憩を挟み最後のアトラクションでは、ポツカレモン消防音楽隊による華やかなパフォーマンスと、著名な楽曲をアレンジ・メドレー構成された演奏を堪能し、研修会は終了しました。



華やかなアトラクション



第34回 女性リーダー研修会

昨年 11 月 20 日、第 34 回女性リーダー研修会が名古屋市総合社会福祉会館で開催され、市老連理事を含む 150 名が参加しました。

今回の基本テーマは「超高齢・少子化・人口減少社会における高齢者への地域支援〜同世代同士の支え合い」。開会あいさつ後、「共

生社会における老人クラブの役割 超高齢・少子化・人口減少社会における高齢者への地域支援〜同世代同士の支え合い」と題して中京大学現代社会学部教授の野口典子氏に講演していた

■講演要旨

個人主体の社会を指向した戦後の日本では、人々の関心は自分のこと・家族のことが中心であり、地域の



中京大学現代社会学部教授 野口典子氏

老老介護が珍しくなくなり、高齢者のみの世帯も増加。支えてくれるはずの家族は遠く離れた所に住み、

では、今後どうすればよいのでしょうか？ 従来の福祉施策では限界が見えてきた現在、地域の住民主体で共に助け合う参画型社会福祉が期待されています。

- ① くらしや地域に関心を持ちながら気軽に参加する
② 問題を予測し、動揺しない経験知を生活に生かす
③ 他人事と思わず、自分のこととして考え、気持ちよく首を突っ込んでみる
④ ひと(異世代、異文化)の話の聞き上手になる
⑤ 目に見える成果をつくる



その後、全体会で各分散会の内容が発表され、最後に助言者と加納女性リーダー代表者会長から講評をいただき、研修会の日程を終了しました。また、ロビーでは各区老連会員による手作り作品が展示され、多くの見学者で賑わいました。